

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館  
10 枚中 1 枚目

実施年月日	第 29 期 第 4 回 運営審議会			平成 29 年 1 月 26 日実施
会 場	中央公民館 403・404 講座室	傍聴人	1 人	
出席者	委員		植木信一、高橋千恵子、澁谷隆司、田原理、阿部正利、田代正孝、祝健一郎、西脇玉子、藤崎千恵子、小島良子	
	事務局	中央公民館	五十嵐政人、江花菜穂子、古川正利、笠原能子、玉木一彦	
		鳥屋野地区公民館	吉田明美	
		東地区公民館	村山恭子	
		関屋地区公民館	芋川常治	
	生涯学習センター	井関一博		
議題等	<p>議題・報告</p> <p>(1) 平成 28 年度公民館事業報告について</p> <p>(2) 平成 29 年度公民館事業計画について</p> <p>(3) 平成 29 年度第 4 回運営審議会小委員会の報告について</p> <p>(4) 広報について</p> <p>(5) 貸館について</p> <p>(6) その他</p>			
審議された議題及び報告について以下に記載する。				
五十嵐中央公民館長あいさつ				
(1) 平成 28 年度公民館事業報告について				
笠原事業担当	資料 1 により、平成 28 年度事業報告（中央公民館）を説明。			
吉田館長	資料 1 により、平成 28 年度事業報告（鳥屋野地区公民館）を説明。			
村山館長	資料 1 により、平成 28 年度事業報告（東地区公民館）を説明。			
芋川館長	資料 1 により、平成 28 年度事業報告（関屋地区公民館）を説明。			
田原委員	<p>複数回数の開催に、参加者数と延べ参加者数の整合性をどのようにしているかということ、前回にも質問したのですが、複数回数やっていると、参加者数にいくつかの数字を掛けて延べ参加者数が多くなっている数値は整合性がある。不特定多数の方が参加する文化祭などは別だが、しっかりした講座を持っていながら複数回数開催して、参加者数と延べ参加者数が同数というのが 3 館はあるが、その説明をお願いしたい。</p> <p>延べ参加者数というのは、実際にその回数で何人が参加したかというのが</p>			

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館  
10 枚中 2 枚目

<p>笠原事業担当</p>	<p>延べ参加者数なので、参加者数と延べ参加者数が同じというのは何か理由があってこのようにしているのではないか。あるいはそういう解釈をしないで数値を入れたのか。私は前にも質問して、今度から分かりやすいようにして欲しいということにしたと思うが、どうなのか。</p> <p>例えば家庭教育学級などは同じ人が 5 回の講座で 1 講座受けることになっており、10 番の「乳児期家庭教育学級」では、同じ受講者で 5 回開催される。22 名から参加いただき、5 回終了した時点で、参加した総数が 103 名となる。</p> <p>また、「スクールコンサート」は 4 回になっているが、会場がそれぞれの小学校で違う学校に 4 回に行ったということで、参加者数と延べ参加者数は同じ数字になっている。</p>
<p>田原委員</p>	<p>延べ参加者数というのは、同じものが参加していても、別会場であって、例えば何とか小学校が何人いて、次の何とか小学校が何人いたとしても、延べ参加者数というのはその事業全体で何人参加したかという数値を表す。私たち素人が、事業でどのように参加者数をとらえたかというのを見ると、数値を見るしかないなので、それが同数というのは、説明してもらわないと分からない。</p>
<p>植木議長</p>	<p>これは 1 回なのだが、4 会場で行っているので同数だと。このあたりの説明を受けないと分からないという話。例えば回数は 1 回として、括弧書きで 4 会場 4 とするとか、次回からそのようにして、少し工夫を加えれば解決することかと思う。</p>
<p>吉田館長</p>	<p>前回の運営審議会で、そのご指摘をいただいた。「子育てサロン」や「青少年の居場所」とは、通常、連続講座で実施している講座とは性格を異にしている。回数は 9 回あったとしても、毎回、同じ人が来るわけではないので、1 回 1 回が単発と考えている。</p> <p>そういう場合は、延べと参加者数を同数にしていると答えているが、分かりにくいので、そういう場合は備考欄に単発とかと書いてくれと指摘されている。今回、そういったことが全く改善されていないため、また混乱を引き起こしたのではないかと。回数は重ねているけれども、毎回、来る人は違うと。同じ人が来る場合もあるが、毎回、単発をやっていると。</p>
<p>田原委員</p>	<p>前日もそのように回答され、座長から、説明書きで説明がつくようにということだった。一般的に、例えば不特定多数が来るような文化祭や居場所な</p>

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館  
10 枚中 3 枚目

	<p>どは分かるが、講座として実施したときに、中央公民館の「スクールコンサート」であれば、どこの小学校で何人参加して、どこの小学校で何回やったとしても、事業として「スクールコンサート」であれば、延べ参加者数として、全部の学校の参加人数をここへ加えていけば、説明書きも何もいらない。</p> <p>講座としてやるときに、例えば「スクールコンサート」をやるときに、単発であろうと、この事業には全部で何人が参加したということが延べ参加者数の意味だと思う。単発ならば、スクールコンサート 1、スクールコンサート 2 として、内容も会場も違いますというふうにしていかないといけない。</p>
植木議長	<p>ご指摘の内容は納得できるので、前回の審議会のときと、今回の内容と踏まえて、次回の資料に生かして欲しい。</p>
西脇委員	<p>この「スクールコンサート」は新潟小学校で 3 回、白山小学校で 1 回になっているが、対象は小学校のどの学年か。</p>
笠原事業担当	<p>特に何年生という指定はなく、お昼休みの時間を利用して、一番人気のあるのが手品ですが、中央公民館にマジック愛好家のサークルがあり、その団体に来てもらい、マジックショーを 30 分くらいやっている。事前の周知方法としては、マジックショーが何月何日のお昼休みにあると、校内にポスターを貼る。その時間をめがけて子ども達が集まってくる。実質、小学校 3 年生くらいまでの低学年のお子さんたちが集まってきている。</p>
西脇委員	<p>そうすると、田原さんが言われるように、全く同じということになるので、やはり新潟小学校で何人、白山小学校で何人と、そのほうがよいのではないか。</p>
高橋委員	<p>まず、中央公民館の「父親学級」だが、かつて 20 年ほど前に県も一生懸命に父親の育児参加ということで、民間企業に、県が出前をしが、結局は 1、2 回で終わってしまい、難しいものだとして認識した。でも、ここでは 9 回で 194 名という人数で、午前・午後・夜と色々な時間帯を工夫した結果だと思うが、素晴らしい。父親が育児をすることで、女性のいろいろな問題で働きやすいバランス関係も含めて、非常に大事だと思う。これは評価されることで、ぜひ続けて欲しい。</p> <p>東地区公民館の 2、学・社・民の融合の「家庭教育学習会」ですが、私は沼垂小学校などいろいろなところでお手伝いしているが、やはり子どもが小学校に入るとき、何となく一段落ついたようで、不安もたくさんあると思う</p>

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館  
10 枚中 4 枚目

	<p>が、ひと区切りのときに、子どもというのはどうなのか、子どもたちは親に何を求めているのかなど、いろいろなことを伝えたり、確認しあったりするととても大事なところだと思う。前は公民館とお手伝いする人だけで行っていたが、今度はPTA委員が入ってくると、組織が地域と結びつくということで、地域としっかりと手を組んで、子どもたちの育ちを頑張っているのだと感心した。</p> <p>現代的課題の「人権講座」とあるが、人権は赤ちゃんから高齢者までである中で、東地区公民館の対象は成人。鳥屋野地区公民館は高齢者。高齢者も、自分が動けなくなったとき、連れ合いに見てもらえるのかとか、自己決定ができない時代があり、そんなときにこういう講座があると、中高年の人たちは、自分の人生の最後をどうやって過ごしたらいいとか、まさに公民館は赤ちゃんから高齢者までということも含めて、いろいろな人権について各公民館でやっていることはとてもいいと思う。</p>
小島委員	<p>1 点は質問で、1 点はエールを送りたい。まず質問ですが、東地区公民館での「お寺でゴーン」ですが、参加者数は 20 人ですが申込みは 52 人ということで、最初に 20 人に限定した理由をお聞きしたい。お寺に泊まれる人数がこれで最大なのか。</p>
村山館長	<p>本堂のように広いところではなく、それほど広くない場所だったため、それが最大でした。</p>
小島委員	<p>今回はなくなりましたが、旧小澤家での宿泊体験事業のときもそうだったが、参加者がもっとたくさんいたら、1 回ではなく 2 回に増やそうとか、そういった意見も出たりしたので、もし、参加者が今後も増えるようであれば、お寺さんなどのいろいろな協力も必要だが、可能なかぎり、子どもたちが参加する機会がもてるといいなと思う。</p> <p>次に、鳥屋野地区公民館の上山中学校の職場体験で来た子どもたちが企画した、はるいろケーキをつくろう、あれはすごくいいことだと思っていて、もともと計画になかったものですね。</p>
吉田館長	<p>一応、出前講座としては考えてはいるが、どうせなら。</p>
小島委員	<p>その、「どうせなら」がすごくよくて、それは、先生方、学校側がのってきてくれたグッドチャンスなので、ぜひ、これは今回で終わりにせずに、上山中学校だけではなくほかの中学校にも、こういった事例があるよということ</p>

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館  
10 枚中 5 枚目

<p>植木議長</p>	<p>をどんどん広めて欲しい。中学生が公民館の活動などに大きくかかわってくることは、今後の公民館活動にとっても、明るい未来のような気がするので、せっかく今回企画してやるのだから、どんどん広めて行って欲しい。</p>
<p>村山館長</p>	<p>ちなみに、「お寺でゴーン」はリピーターが入っているか。</p>
<p>植木議長</p>	<p>リピーターの申し込みもあるが、できるだけ初参加の方を優先している。</p>
<p>村山館長</p>	<p>この 52 人の中にはリピーターの方も含まれている。つまり人気があり、そういうものはとても大事にしたいと、今、小島委員のお話を聞いて思う。</p>
<p>植木議長</p>	<p>今まで法光院でやっていたが、今回、法光院は事情によりだめで、お寺を探すのに時間がかかり、お寺さんも、すぐにいいよというわけにはいかないなので、その辺は難しい。</p> <p>なるべく子どもたちのニーズに添うような、リピーターも参加できるような企画に発展できればいい。</p> <p>ときどき新潟日報紙を含めたマスコミに公民館のこういった活動が出ることもある。次回以降はマスコミで紹介されたような公民館活動もプリントアウトして、こういった審議会で紹介して欲しい。</p>
<p>澁谷委員</p>	<p>中央公民館の◎の 29 番、具体的には婚活セミナーだが、これまでの情報によれば、田舎のほうかなといったイメージがあったが、具体的にまちの中で、このような形でやられているのは、私自身、初めて聞いた。実際に運営するにあたって、進行される方、取りまとめる方の役割も難儀な仕事だと考えているが、外部の講師なども引率していただくような方法も考えていたのか。それは関係なしに、公民館の職員で運営される予定なのか。</p>
<p>笠原事業担当</p>	<p>中央公民館の婚活事業は、事業委託という形で、株式会社ニューズラインに事業自体を委託することになった。1 月初めに、公募で業者の選定を行い、全部で 3 社の企業から応募があった。事業提案のプレゼンテーションを受けた中で選定した。その内容をベースに、こちらの意向も加味して、さらにブラッシュアップさせて内容を固めた。</p>
<p>澁谷委員</p>	<p>先ほどの話の中で、人権の問題があった。最近、メディア、新聞等で書かれるものは、学校に対してのものが多々出ているが、家庭はどうなのかと。</p>

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館  
10 枚中 6 枚目

<p>田原委員</p> <p>植木議長</p>	<p>子どもたちが帰っていく家庭はどうかという部分では、大人自身が人権といったものを忘れてしまっていて、子どもに正しく伝えられないのではないか。そういった面においては、公民館の役割としても、啓発するためのパンフレットを作って、各コミュニティ協議会にお願いするとか啓蒙の活動を、広めていく必要があるのではないか。</p> <p>今のことに関連して、人権に対する学習というのは社会教育の重要な分野であり、行政で行う事業等には人権が必ず入る。ところが、人権を取りあげるのは難しいことで、専門家がなかなかいないことや、人権についてはいろいろな考え方があり、行政の人は敬遠しがちになる。新潟市は人権講座を取りあげているが、県内の公民館でも非常にめずらしいので、ぜひ、外国の方々、女性、子ども、お年寄りという非常に身近なテーマがあるので、ぜひ継続して、いい講座を続けて欲しい。</p> <p>ご指摘のとおりだと思う。人権の中にはダイバーシティと呼ばれる多様性というものが含まれており、幅広く扱う分野があるということも、公民館から発信できるようになるといい。</p>
<p>(2) 平成 29 年度公民館事業計画について</p>	
<p>笠原事業担当</p> <p>吉田館長</p> <p>村山館長</p>	<p>資料 1 により、平成 29 年度事業計画（中央公民館）を説明。</p> <p>新規事業として、「乳児期家庭教育学級」を、土・日に別途追加で開催予定。通常の「乳児期家庭教育学級」の参加者の方々からご意見や、アンケートなどから、共働き世帯やシングルの方、1 人でお子さんを育てているような家庭もあり、平日の昼間の講座に参加するのは難しいため、土・日の開催要望があり、来年度は、土・日開催の「乳児期家庭教育学級」を実施する予定。</p> <p>また、それ以外の新規事業として、「地域の茶の間」の開設や、実際に運営に携わる人材を育成する「茶の間の学校」という講座を開催する予定。</p> <p>資料 1 により、平成 29 年度事業計画（鳥屋野地区公民館）を説明。</p> <p>平成 29 年度は平成 28 年度の事業をそのまま実施していきたいが、具体的な内容等については若干変わる。見直しで、できなくなってしまう事業も出てくることもある。</p> <p>資料 1 により、平成 29 年度事業計画（東地区公民館）を説明。</p> <p>平成 29 年度の新規事業はなし。平成 28 年度に新規事業として「子育て広場『けやきのもり』」と「幼児期家庭教育学級」と「わくわくキッズ」を開設</p>

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館  
10 枚中 7 枚目

<p>芋川館長</p>	<p>したので、2年目で、より充実した内容にして、ほかの事業ともども充実させたい。</p> <p>資料1により、平成29年度事業計画（関屋地区公民館）を説明。</p> <p>平成29年度の事業内容は、ほぼ昨年どおりの事業内容を考えているが、今年度の事業執行状況を見ながら、多様な地域課題に対応するため内容の充実を図り、より来館者に喜んでもらえるよう、これまで以上に地域に寄り添った事業展開をしていきたい。中でも、「わくわくランド」事業や「夏休みWANPAKUサバイバルキャンプ」事業など、青少年の生きる力をつけるための事業にコミュニティ協議会の協力を得ながら、重点的に取り組んでいきたい。</p>
<p>植木議長</p>	<p>先ほどの議題の（1）で、今後の要望も含めてご意見がたくさん出たので、それを反映して、具体的な平成29年度の事業計画を立案していただきたい。</p>
<p>阿部委員</p>	<p>学校の立場として、子どもたちの宿泊体験は、確実に子どもたちが育つ、大人になる活動だと思う。いろいろな制約で、学校でも、修学旅行と自然教室、そのあたりしかできなくなっている。以前は、自然教室で3泊4日、もう少し長い、立山あたりまで行ったりとか、磐梯に行ったりも可能だったのだが、できにくくなっている。そんな中、各公民館でさまざまな青少年向けの宿泊体験活動を実施していることに、まず、御礼申し上げたい。さまざまなアレルギーなどを持っている子どもが増えており、公民館で実施するにしてもリスクのある事業ではないかと思うが、これからはぜひ、参加者の敷居を下げる努力をして、参加しやすい活動をお願いしたい。家庭の諸事情で、家庭としてなかなか参加できない子どもたちも参加できる。そのような視点で事業を計画してもらえれば、大変ありがたい。</p>
<p>高橋委員</p>	<p>同じように、関屋地区公民館はずっと野外活動をしているが、野外活動は大変なこと。子どもたちの命を守ることも含めて。野外活動は、防災活動にもつながっていくと思う。私たちがたくさんの子どもの預かる仕事をしているが、やはり地域の方の力を借りないと子どもたちを守ってあげられないことは、日々、強く感じている。子どもたちは、ふかふかの布団でないと寝られないとか、火を焚いたりする体験が全くないから、火って何なのと。暖をとるとき、食事を作るのも火だし、灯りとしても使う。子どもたちに身近なものとして感じられるようにしたい。火傷など問題もあるが、蠟燭の火も同じ灯り。蠟燭の灯火を使いながら、地域の方を巻き込んで、子どもたちに火</p>

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館  
10 枚中 8 枚目

<p>田原委員</p> <p>植木議長</p>	<p>って何かといったことも教えていくことが、これからの時代を生きる子どもたちの「生きる力」をつける意味でも、私たちの課題ではないか。信念があれば、きっといつかは子どもたちもいろいろなことができるようになっていくと思う。</p> <p>各地区公民館事業は、それぞれの館長のしっかりとした理念のもとに、公民館が最も大切にしなければいけないものを体系的にやるとか、継続的にやるとか、事業についての参加は無料であるとか、そういった原則を守りながら、いい事業をやっている。特に新潟市の場合は生涯各期において体系的に非常に整理されて事業が展開されている。代表的なものは「お寺でゴーン」だが、こういった事業を大事にしながら、今回新しく出てきた鳥屋野地区公民館のセミの羽化観察会を目玉にするとか、継続的にやることによって、子どもの発達を促すとか、住民の方に理解してもらおうとか、子どもが来れば親も来るので、宣伝効果が非常に高いので、こういったものをしっかりやっていくことでいい事業になるのではないかと。</p> <p>今後も各公民館の多様な事業やプログラムに期待がかかるところで、子どもたちや地域住民が見て、楽しいと思えばリピーターが増え、波長やピントがあれば、それは公民館を頼りにするので、そのあたりは社会教育あるいは公民館の役割なのではないかと。</p>
<p>(3) 平成 29 年度第 4 回運営審議会小委員会の報告について</p>	
<p>江花補佐</p>	<p>資料No.なし、(3) 平成 29 年度の公民館運営審議会小委員会を報告</p>
<p>(4) 広報について</p>	
<p>五十嵐館長</p>	<p>公民館のマークについて。公民館は現在、44 館あり、職員が 142 人という大所帯。各公民館によって、施設内容、事業内容がかなり違っているのが現状。そこで、新潟市の公民館としての統一した方向性や事業について、みんなで心を 1 つにしてやっていこうと、マークを作ってはどうかという意見や、公民館の発信力が弱いということも指摘されていたことから、作ることにした。12 月 1 日から募集を始め、1 月 6 日まで募集したところ、市内の方から 80 人 134 点。新潟市を除く県内から 10 人 16 点。県外の方から 96 人 159 点。住所不明が一人 1 点あり、合計で 187 人 310 点の応募作品があった。</p> <p>今週火曜日に審査会を開き、最優秀賞 1 点、優秀賞 3 点、入賞 5 点を決定した。</p> <p>今、類似作品がないか、著作権法上抵触するものがないかを確認しており、</p>



中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館  
10 枚中 9 枚目

	<p>確認でき次第、発表する。発表予定は2月7日の教育委員会定例会を踏まえ2月8日を予定している。</p> <p>今後、パンフレット、チラシ、名刺等やフェイスブックやホームページ、シール、封筒といったものに使っていこうと考えている。市として共通の公民館のマークを持っているところはなく、単独の公民館でもそういったものを持っているところはほとんどないということ。</p> <p>次に、フェイスブックの状況です。フェイスブックの開設は、先回の運営審議会の中で説明しているが、5月31日に中央公民館がフェイスブックをスタートさせた。1月20日までに49件の記事をあげて、平均すると週に1.5件ということになる。それを何人の方が見ているかという、延べで1万6,629人です。1つの記事当たり、平均すると340人となる。それなりの効果があるのだろうと思っております。ほかの公民館でもやっており、それなりに公民館のフェイスブックを見て参加される。特に20代、30代。家庭教育学級等を受講されようとしている方などは、これを見て来たという方が何人かいる。</p> <p>フェイスブックについては、中央区では中央公民館だけが、各地区の公民館についても順次、開設をしていく。</p> <p>シンボルマークとか、フェイスブックがあると楽しい。ちなみに、カラーのものが4点出たが、モノクロパターンというのはあるのか。</p> <p>募集要項の中には、2色あるいは単色になったときも、対応できるようなものということにしているし、その辺も踏まえて審査している。</p>
(5) 貸館について	
古川管理担当	<p>資料2により説明。</p> <p>生涯学習センターは、150席の大きな映像ホールを持っているが、現在、公民館も生涯学習センターの利用も2か月前からの予約しかできない。生涯学習センター、中央公民館ともにだが、利用開始の受付開始を2か月から6か月に改め、早めに場所を確保して、大きなイベント等に使いやすくするため貸館を変更する予定になっている。</p>
(6) その他について	
西脇委員	<p>それぞれの公民館で一生懸命やっている報告があり、すごく勉強になる。それぞれ重点を絞っているが、少しでも、すごくよかったというものを、紹介していただきたい。私は鳥屋野地区公民館の『『自然と環境』講座』に出て</p>

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館  
10 枚中 10 枚目

	<p>いるが、鳥屋野潟の歴史から始まって、将来ラムサール条約など、最後に鳥屋野潟のお魚を食べた。食べたらいしくて、そういうことを紹介してもらおうと、すごくいい。それぞれの公民館は、自信を持ってやっているのだから、その中で、これはよかったという事例を紹介して欲しい。限られた人数の中ですごく努力している。公民館は地域力を高めていく核です。地域リーダーなど有機的な連携で活動の輪を広げて欲しい。そのためにもホットな心と冷静な頭脳を持った職員をもっと増やして欲しい。</p>
高橋委員	<p>おわびと情報提供をしたい。おわびですが、野外活動をぜひお願いしますと言ったが、本当に大変なこと。その中で、県のレクリエーション協会の中にはキャンプ協会がある。新潟市のレクリエーション協会の中でも青少年のキャンプのお手伝いに出向いているスタッフもたくさんいる。ガールスカウト、ボーイスカウト、任意組織も常にやっている。地域の中にある既存のところと手をつなぎながら、安心して事業ができるように、地域の財産でもあるガールスカウトやボーイスカウトの力を借りるとか、いろいろなところで手を結びながら、地域の皆さんの質を上げていただくことがいいのではないかと思う。</p>
植木議長	<p>確かに量的な報告はこのような添付の資料の数字を見るとよく分かる。一方では、質のところは両委員が言われたように、例えば写真で紹介するとか、先ほど申し上げたが、マスコミ等で取りあげられた新聞記事のコピーとか。そういったことがあるとずいぶん違う。そのような工夫があると、我々がそれを見るだけで、より分かりやすいのではないかと。</p>
古川管理担当	<p>現在、公民館の運営審議会委員の公募をしている。今回は平成 29 年 4 月 1 日現在で満 18 歳以上の方。公職選挙法が改正されていることで、18 歳以上の新潟市民で、応募する区に在住、在勤、在学しているか、区の公民館で活動している人を各区で 2 名以内で、現在募集しています。応募締め切りは 2 月 15 日までとなっているので、該当の方がいましたら、ご紹介いただきたい。</p>
植木議長	<p>たくさん公募があるといいですね。 それでは、以上で 3 の議題と報告を終わります。</p>